兵庫県の地震活動

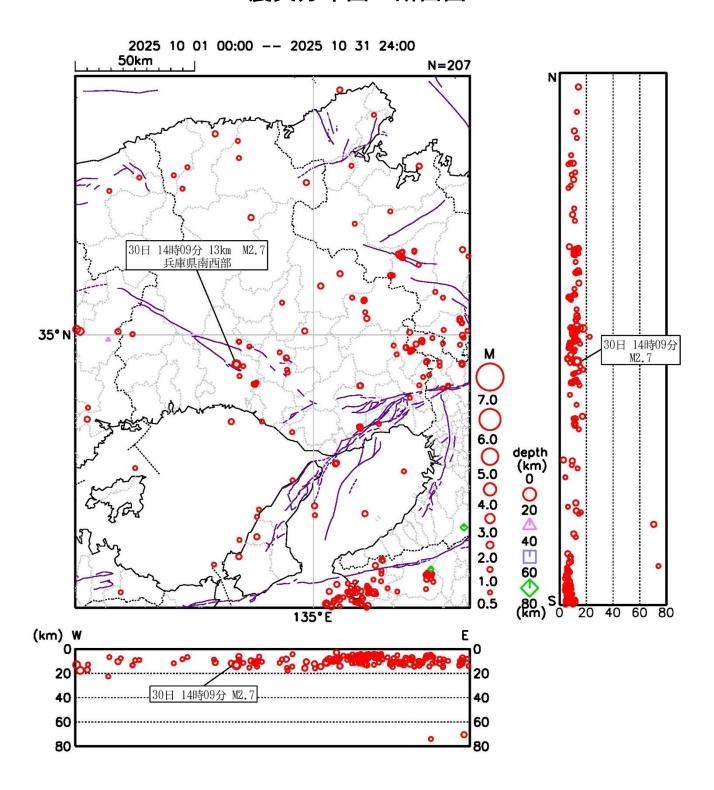
2025年(令和7年)10月

震央分	布	义	•	新	面	図	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
概況・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
兵庫県	で	震	度	1	以	上	を	観	測	L	た	地	震		覧	表	•	•	•	•	•	•	•	2
兵庫県	で	震	度	1	以	上	を	観	測	L	た	地	震	の	震	度	分	布	図	•	•	•	•	2
一口メ	モ																							
久	17	祭/	生、	す	ス・	 	霳	~	\mathcal{O}	借	ラ	1,7		l, s	7			•	•		•	•	•	3

- * 「兵庫県の地震活動」は月1回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするととも に、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防 災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- * この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- * また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

神戸地方気象台

震央分布図 • 断面図



左上:震央分布図 右上:東から見た断面図 左下:南から見た断面図 注)分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

概況

--10月の概況--

今期間、兵庫県内では震度1以上の地震を1回観測しました。

30日14時09分 兵庫県南西部の地震(深さ13km、M2.7)により、加古川市で震度1を観測しました。

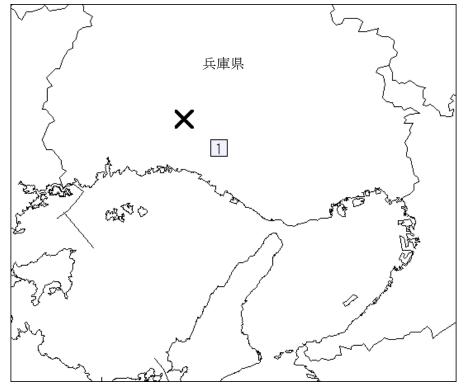
兵庫県で震度1以上を観測した地震一覧表

地震発生日時	震央地名	北緯	東経	深さ	マク゛ニチュート゛	全国最大震度				
各地の震度(兵庫県内)										
10月30日 14時09分	兵庫県南西部	34° 54.5'	134° 42.6'	13km	M2.7	震度1				
震度 1: 加古川市志方町*										

震源要素は、後日修正される場合があります。確定値は「地震・火山月報(カタログ編)」に掲載されます。 なお、*印は気象庁以外の地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

兵庫県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

10月30日14時09分に発生した、兵庫県南西部の地震の震度分布図(観測点震度)。



凡 例 1 震度 1 **X**:震央

ーロメモ

冬に発生する地震への備えについて

11月に入りいよいよ寒くなってきました。みなさんは冬を迎えて地震への備えは十分でしょうか。令和6年度末、中央防災会議は南海トラフ巨大地震が発生した場合に想定される被害想定を更新しましたが、これは被害が一番大きいといわれる冬の深夜の想定で行われています。また、大きな被害をもたらした1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震、最近では、2024年1月1日の能登半島地震も寒い時期でした。令和6年度内閣府防災白書によると、能登半島地震では、寒さが影響して亡くなった「低体温症・凍死」が全体の死因の1割強とのことです。冬に発生する地震を想定して、備えを見直してみませんか?

●火災

🦫 火災への備え 🌑

冬はガスや暖房器具などを利用していることが多く、地震が発生することにより、揺れや転倒により火災が発生することがあります。ただ、最近では、器具の安全装置により自動消火する場合もあり、慌てて消そうとすると怪我などをすることがあるため、地震の揺れが収まってから火を消すようにしましょう。特に、冬は空気が乾燥しているため、火事が起こりやすくなります。普段から、火を使うものの近くに燃えやすいものは置かないようにしてください。

※寒さへの備え※

前述の通り、<mark>寒さによって多くの方が亡くなっています</mark>。地震によって、ガスや電気などライフラインは使えない可能性があり、また、被害により新たな灯油の入手も 難しくなることから、電気や化石燃料を使う暖房器具は、長期にわたっての

無しくなることから、電気や礼石燃料を使り暖房品具は、長期にわたっての備えとしては不十分と考えます。<mark>防寒グッズとして、防寒具や毛布、たくさんのカイロ、防寒アルミシートなどを準備</mark>しておくことが大切です。これらがあると、長期にわたり防寒でき、また避難先などへ移動する際にも持っていくことができます。



▼ 関連リンク

内閣府ホームページ「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ(令和5年~)」 https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku_wg_02/index.html

内閣府ホームページ「令和6年度防災白書」

https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/r06/honbun/t2_Is_02_00.html